

令和4年度採用

群馬県公立学校教員選考試験問題

中学校（音楽）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

注意事項

- 1 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから5ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と解答用紙の両方を机の上に置いてください。
- 5 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 6 この問題用紙は、持ち帰ってください。

※ 1、2 (1)は音楽を聴いて答える問題です。

- 1 これから聴く旋律を解答用紙に書きなさい。なお、調、拍子、小節数は以下のとおりである。

F - d u r (へ長調)、4分の3拍子、8小節

- ・調号、拍子記号は自分で書くこと。
- ・旋律は、8小節を通して、全部で4回繰り返す。
- ・曲間は、10秒とする。

- 2 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

- (1) これから聴く2つの曲について、曲名と作曲者名をそれぞれ書きなさい。
- (2) 「大地讃頌」は、 $J=76$ 、4/4拍子で56小節の曲である。この曲のおよその演奏時間とその根拠となる計算式を書きなさい。
- (3) 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編」の、「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」において、各学年の「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うことが示されている。()に入る言葉を書きなさい。

3 第1学年において、「春」第1楽章を教材に「音楽の特徴から情景を想像しよう」という鑑賞の題材を設定し、次のような指導計画を立てた。後の(1)～(3)の問いに答えなさい。

【指導計画】

(全3時間)

時	ねらい	主な学習活動
1	(ア) 作曲者や弦楽合奏の楽器について知るとともに、独奏ヴァイオリンと弦楽合奏による表現を聴き取り、曲想と(イ) 音楽の構造を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1楽章を聴き、演奏されている楽器を確認して弦楽合奏の楽器について知る。 ・合奏と独奏の部分を聴き分ける。
2	(ウ) ソネットとの関連を考えながら、楽器の音色、旋律、テクスチャ、強弱などを聴き取り、曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・(エ) 楽譜を見ながらそれぞれの旋律を聴き、どのソネットを基につくられたものであるかを考える。 ・(オ) 個の考えをもとに、グループや全体で気付いたことや感じ取ったことを交流する。
3	音色、旋律、テクスチャ、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わう。	(カ)

(1) 第1時の学習について次の①、②の問いに答えなさい。

① 下線(ア)の「作曲者」名を書きなさい。

② 下線(イ)の「音楽の構造」について、合奏と独奏が交互にあらわれるこの曲の形式を書きなさい。

(2) 第2時の学習について次の①～④の問いに答えなさい。

① 下線(ウ)の「ソネット」について説明しなさい。

② 下線(エ)の「楽譜を見ながら」学習することのよさを書きなさい。

③ 下の旋律のソネットについて、生徒は「泉はそよ風に誘われ、ささやき流れていく」であると考えた。そう考えた根拠として生徒が挙げるであろう理由を「リズム」「旋律」の言葉を使って書きなさい。

④ 下線(オ)の活動を充実させるため、生徒一人一人に配付されたタブレット端末を活用したい。どのような活用方法が考えられるか書きなさい。

(3) 第3時の学習において、(カ)で考えられる主な学習活動を書きなさい。

4 第3学年において、「言葉のリズムと抑揚を生かして旋律をつくろう」という題材を設定し、「閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声」という俳句を用いた「表現（創作）」の学習を行う。次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) この俳句を4/4拍子、4小節の旋律にするため、生徒に例として示す4/4拍子、4小節のリズムを書きなさい。また、「しずかさや いわにしみいる せみのこえ」が歌詞となるよう、つくったリズムの下に書きなさい。

(2) 言葉の抑揚をもとに、民謡音階を使って旋律づくりを行う。次の①～③の問いに答えなさい。

① 言葉の抑揚に合わせて音を当てはめさせたい。生徒に言葉の抑揚を感じ取らせるための手立てを書きなさい。

② キーボード等を使って旋律づくりを行う際、生徒が音を選びやすくするための手立てを書きなさい。

③ 中間発表を行ったところ、「みんな同じような感じの旋律になっていたので、もう少し工夫したい」という意見が生徒から出された。このことを受け、旋律を改善するためにどのような助言をするか書きなさい。

(3) カリキュラムマネジメントの視点から、教科等横断的な学習を充実させるための授業改善を行いたい。今回の創作の授業と他教科の学習を関連させるために、どのような活動が考えられるか書きなさい。

5 第1学年において、「さくらさくら」を教材に、箏を用いて「表現（器楽）」の学習を行う。次の(1)～(5)の問いに答えなさい。

(1) 左に示したような楽譜を何というか、書きなさい。

(2) ホ音から始まる調弦をした平調子で演奏する際、Aの部分を解答用紙の五線譜に書きなさい。

(3) 弦名の左側に表記されたカタカナを「唱歌」と呼ぶ。次の①、②の問いに答えなさい。

① 「唱歌」の読み方を平仮名で書きなさい。

② 「唱歌」を用いるよさを書きなさい。

(4) 箏をより響きのある音で演奏するために、どのように弾いたらよいかについて、生徒が実感を伴って理解できるようにするための手立てを書きなさい。

(5) 合奏をする際、タイミングを合わせて演奏を始めるため、教師が前奏を演奏することとした。前奏をつくり、解答用紙の楽譜に書きなさい。

6 第2学年において、「歌詞が表す情景や心情を感じ取り、曲想を味わいながら歌おう」という題材を設定し、「荒城の月」を教材に「表現（歌唱）」の学習を行う。後の(1)～(5)の問いに答えなさい。

(1) 作曲者名を書きなさい。

(2) 歌詞が表す情景や心情を捉えやすくするための手立てを書きなさい。

(3) 歌詞が七五調でつくられていることを生徒に気付かせるための手立てを書きなさい。

(4) この曲は、下に示した補作編曲されたものも広く親しまれている。原曲と補作編曲された作品を聴いたり歌ったりしながら比較し、異なる点に着目させて、その違いによってどのような特徴や雰囲気が生み出されているかを感じ取り、表現に生かす活動を行う。後の①、②の問いに答えなさい。

① 補作編曲者名を書きなさい。

② 下線部について、着目させたい異なる点を2つ書きなさい。また、そのことに着目していると評価できる生徒のワークシートの例について、記述の続きを書きなさい。

〈ワークシート〉

私は補作編曲された作品の方が好きです。なぜなら、・・・

(5) 歌唱の授業を行う上で、マスクの着用以外に考えられる感染症対策を2つ書きなさい。

音楽 解答用紙	2枚中の1	受験番号	氏名
---------	-------	------	----

(4年)



2

(1)	1曲目	曲名	作曲者	
	2曲目	曲名	作曲者	
(2)	時間		(3)	
	計算式			

3

(1)	①		②	
(2)	①			
	②			
	③			
	④			
(3)				


4

(1)			
(2)	①		
	②		
	③		
(3)			

音楽 解答用紙	2枚中の2	受験番号	氏名
---------	-------	------	----

(4年)

5

(1)		(5)	
(2)			
(3)	①		
	②		
(4)			

6

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	①
	②
(5)	-----

以下はあくまでも解答の一例です。

音楽 解答用紙	2枚中の1	受験番号	氏名
---------	-------	------	----

(4年)

1



2

(20点)

(1)	1曲目	曲名 トッカータとフーガ	作曲者 バッハ
	2曲目	曲名 愛の挨拶	作曲者 エルガー (2点×4=8点)
(2)	時間	およそ176秒 (2分56秒 およそ3分 など)	
	計算式	計算例 $60 \div 76 \times 4 \times 56 = 176 \dots$ など (演奏時間 = $60 \div \text{テンポ} \times \text{拍子} \times \text{小節数}$) (回答2点 計算式4点 計6点)	(3) 指導のねらい (6点)

3

(1)	①	ヴィヴァルディ (ビバルディ) (4点)	②	リトルネロ形式 (4点)
	(2)	①	イタリアでつくられるようになった14行からなる詩のこと (4点)	
②		リズムや旋律の動きを視覚的に捉えることができるため、ソネットの特長が捉えやすくなる など (6点)		
③		16分音符の細かいリズムと、隣り合った音に移っていくならかな旋律によって、そよ風で静かに波立つ泉の様子が思い浮かべられるから。 など (8点)		
④		・ワークシートを端末上で共有できるように設定することで、自分たちの考えや感じたことをリアルタイムで書き込んだり、意見を共有したりする。 など (8点)		
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2時間目で習得した知識を踏まえて「春」の第1楽章を聴き返し、曲想と音楽の構造とのかかわりなどを根拠として挙げながら批評文を書く。 ・音楽を形づくっている要素の働きに着目しながら、「四季」の中から他の曲を鑑賞し、「春」の第1楽章と比べて、共通するところや、それぞれのよさなどについて発表したり交流したりする。 など (8点) 			

4

(1)	<p>しずかさや いわにしみいるせみのこえ など (8点)</p>	
(2)	①	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚を線の上がり下がりです。 ・言葉の抑揚に合わせて手を上下させ、言葉の抑揚を感じ取れるようにする。など (6点)
	②	鍵盤にシールや付箋等で民謡音階に含まれる音に印をつける。 など (6点)
	③	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚に合わせて音の跳躍を広げる。 ・文節ごとに始まる音を変える。 ・言葉のリズムを変える。 ・音の間に違う音をはさむ など (8点)
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業と関わらせ、修学旅行等で作った自分の俳句に旋律を付ける活動を設定する。 ・総合的な学習の時間や学校行事等と関わらせ、発表会を実施したり、他学年の生徒や校外の人たちに対して発表する機会を設けたりする。 など (8点) 	

以下はあくまでも解答の一例です。

音楽 解答用紙	2 枚中の 2	受験番号	氏名
---------	---------	------	----

(4 年)

5

(1)	家庭式縦譜または縦譜 (4 点)	(5) <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>十</td></tr> <tr><td>斗</td></tr> <tr><td>巾</td></tr> <tr><td>為</td></tr> <tr><td>斗</td></tr> <tr><td>十</td></tr> <tr><td>十</td></tr> <tr><td>九</td></tr> <tr><td>十</td></tr> <tr><td>●</td></tr> <tr><td> </td></tr> </table> など (8 点)	十	斗	巾	為	斗	十	十	九	十	●	
十													
斗													
巾													
為													
斗													
十													
十													
九													
十													
●													
(2)	(6 点)												
①	しょうが (4 点)												
(3)	② 唱歌は旋律やリズムだけでなく、その楽器の音色や響き、奏法なども表すことができるため、旋律や奏法を覚えやすい。また、旋律のまとまりや曲全体の流れを感じ取ることができる。 など (8 点)												
(4)	爪を当てる角度や位置を様々な場合で試す場を設け、音の響きの違いを捉えられるようにする。その際、ペアになって、一人が弾き、もう一人が聴いてどのように聞こえたかを伝え合うことで響きの違いをより意識できるようにする。 など (8 点)												

6

(1)	滝 廉太郎 (4 点)		
(2)	・言葉の意味を確認する。 ・作詞者の言葉を紹介したり、作詞の材料となった城の写真を提示したりする。 など (6 点)		
(3)	歌詞を声に出して読みながら、言葉の数を数える。 など (6 点)		
①	山田 耕祐 (4 点)		
(4)	② <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td> ・「はなのえん」の「え」の音程の違い ・リズムの違い (八分音符と 4 分音符) </td> <td> ・速度記号の違い ・強弱記号の付け方の違い </td> </tr> </table> から 2 点 (4 点 × 2)	・「はなのえん」の「え」の音程の違い ・リズムの違い (八分音符と 4 分音符)	・速度記号の違い ・強弱記号の付け方の違い
・「はなのえん」の「え」の音程の違い ・リズムの違い (八分音符と 4 分音符)	・速度記号の違い ・強弱記号の付け方の違い		
②	私は補作編曲された作品の方が好きです。なぜなら、 ・「はなのえん」の「え」の音が違うだけで、雰囲気少し柔らかく、より深みが出ていると感じられたからです。また、強弱もピアノやピアノッシモまで幅広く変化していることで、より繊細な感じがするのよよいと感じました。 など (8 点)		
(5)	・生徒同士の間隔を前後左右十分にとった並び方にする。 ・立っている生徒と座っている生徒が混在しないようにする。 ・換気を十分に行い、連続した練習時間はできる限り短くする。 など (4 点 × 2)		